

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503486		
法人名	株式会社 ゆうらく		
事業所名	高齢者グループホーム「遊楽館」平岡		
所在地	〒004-0835 札幌市清田区平岡4条1丁目1番4号 (電話) 011-885-9100		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月7日	評価確定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(平成21年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月13日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000円	その他の経費(月額)	20,000~30,000円
敷金	有(64,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美しが丘病院・マリオン歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、敷地が広く、利用者が車椅子でも移動や介助が容易なゆったりとした間取りで、落ち着いた生活ができる。介護度の高い利用者には食事、排泄、入浴の介助など利用者に合わせて支援を行っている。「わたしたちは、あなたの孫の手になりたい」という理念を具体化したケアのあり方を確認しながら利用者に関わり、また、地域の中で孤立しないように、職員は地元住民と連携をとりながら、家庭的な生活を送ることができるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、災害対策と栄養摂取や水分確保の支援の項目への取り組みが期待されていたが、今後も更なる改善が望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業者が良好なケアに取り組むために、全職員で各項目の見直しをした。前回の評価を考慮し、ケアの向上を目指している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を3ヶ月ごとに開催し、事業所の報告だけでなく、評価についても話し合っている。討議内容を参考にして、ケアの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は、運営推進会議に出席し意見を述べる機会がある。また、職員が面会時に家族に気軽に声かけをしているが、今のところ際立った不満などは出ていないようである。苦情の窓口は提示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、春の大掃除に参加したり、中学校の資源回収に協力するなど、地域とのかかわりを意識している。今後、夏祭りでの地域との交流を計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「わたしたちは、あなたの孫の手になりたい」という運営方針を掲げ、具体的に8項目を決め、地域の中で孤立することなく安心して生活するための理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の暮らしの中で理念の実践を心がけ、ケアサービスの向上に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、春の大掃除に参加したり、中学校の資源回収に協力するなど、地域との関わりを意識している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所が良好なケアに取り組むために、全職員で各項目を見直した。前回の評価を考慮し、ケアの質の向上を目指している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヶ月ごとに開催し、事業所の報告だけではなく、評価についても話し合っている。討議内容を参考にして、ケアの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所や地域包括支援センターと連携し、事業所運営を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ではないが、事業所だよりを利用者の写真などを中心にして作成し、家族に配布している。金銭出納については面会時に説明して報告し、職員の異動等についても家族に通知している。事故や病院の受診等は、その都度知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、運営推進会議に出席し意見を述べる機会がある。また、職員が面会時に家族に気軽に声かけをして話をしているが、今のところ際立った不満などは出ていないようである。苦情の窓口は提示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に影響がないように職員の異動は出来るだけ最小限にし、管理者をはじめ慣れている職員が支援をしている。なお、職員に異動があった場合は、家族に報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は法人として研修があるが、事業所としてその後の研修の取り組みはみられない。なお、外部研修への参加はしている。	○	事業所内での、研修の取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の同業者との交流を持ち、連絡会議には休まず出席している。また、年に1度の区内のグループホーム交流会には、利用者も参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始を決定する以前に、見学や話し合いを本人や家族、関係者で充分に行い、職員とのふれあう機会をできるだけ多くし、なじみの関係を作るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的なケアではなく、利用者の喜怒哀楽を共感し、職員は利用者から学ぶ姿勢を重視している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に声かけし、一人ひとりの思いの把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者には家族からの情報や、センター方式のアセスメントなどを参考にして把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや要望などを聞き、その上で、会議で担当職員が気づきなどを話し、充分検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議で一人ひとり状況を検討し、3ヶ月ごとに見直して介護計画を作成している。また、状況が急変した場合には、その都度対応している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望で、個別の通院介助、美容室の送迎、買物など外出支援をしている。また、金銭の自己管理をしている利用者には、郵便局への同行もしている。さらに、家族の宿泊希望にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を尊重し、安心して病院の受診ができるように支援している。月1度かかりつけの医師の往診があり、受診している利用者は多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近、医療機関との連携を開始した。事業所内で、重度化や終末期に向けた方針についての話し合いはしていない。	○	契約時に取り交わす、重度化や終末期の対応についての指針の作成が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は声かけや対応など、プライバシーに配慮をして支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての日課はあるが、強制ではなく自由参加とし、体操なども楽しく実施している。一人ひとりのペースを大切にしながら、個別性を尊重し、利用者の満足のいく暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望などを聴いて、職員が献立を作成している。特に、誕生会の時の献立は、本人の希望に添うようにしている。利用者は、調理の手伝いや食器ふきなどをしており、職員は介助をしながら一緒に食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、曜日や回数などを特に決めず、自由に利用者の希望に添う支援をしている。一人での入浴が困難な利用者には、職員が介助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの好みや、能力、生活歴などを考慮した役割や楽しみごとなどを柔軟に支援している。また、日課として体操なども行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や家族の要望などを踏まえて、介護計画を作成している。近くのスーパーや公園の散歩など、個別に外出支援をしている。また、車椅子対応の乗用車を用意している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は玄関の施錠について共通認識をもち、日中の施錠は行っていない。また、室内で開閉が把握できるように、玄関にチャイムを設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で、避難訓練を実施している。しかし、夜間想定訓練や、地域の協力体制などはない。	○	利用者や職員が安心して暮らしを継続出来る様に、夜間想定訓練の実施や地域の支援体制が求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状態に応じた食事を支援している。また、水分量などを記録し、把握している。しかし、献立の栄養価の点検はしていない。	○	職員が献立を作成しているが、同一法人内の栄養士に栄養面での点検を受けるなど、なお一層の充実が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、廊下のコーナーなど利用者が使いやすい間取りに設計されている。生活感や季節感を取り入れ、居心地のよい生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人のなじみの家具などを配置して、日当たりも良く、利用者は落ち着いて生活している。		

※ は、重点項目。